

経営比較分析表（平成30年度決算）

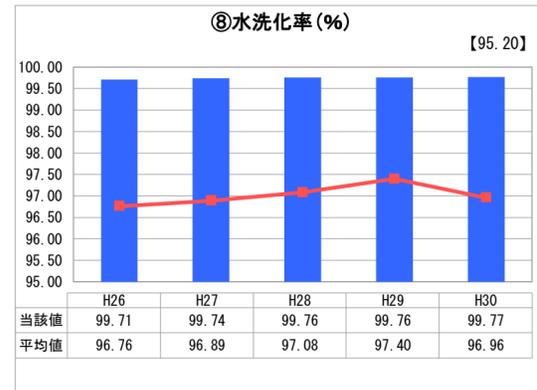
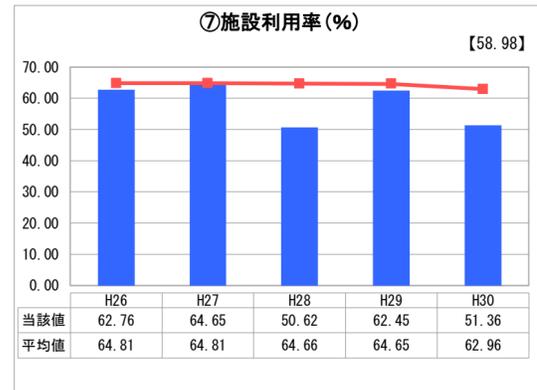
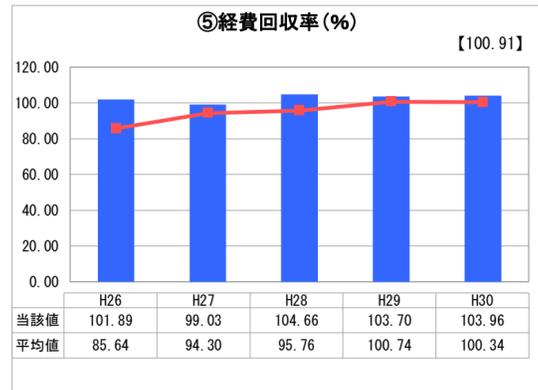
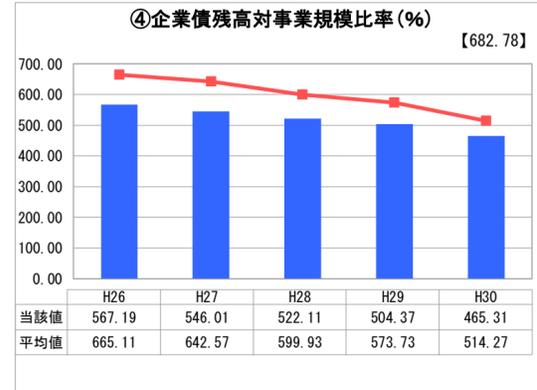
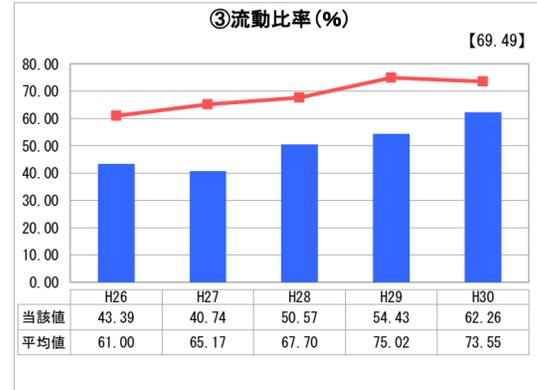
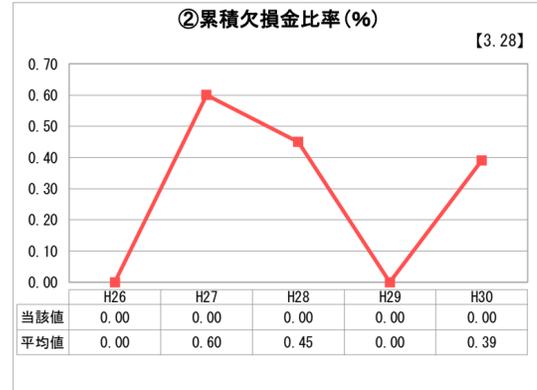
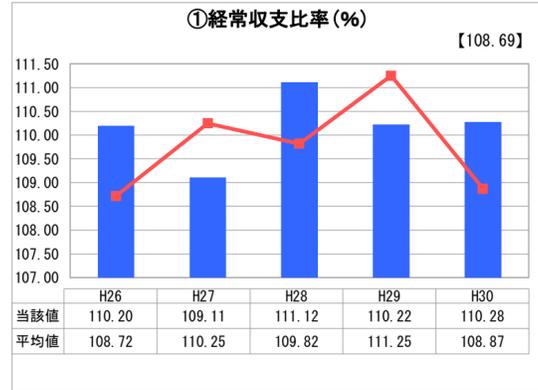
兵庫県 西宮市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Aa	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	66.48	99.94	88.54	1,745

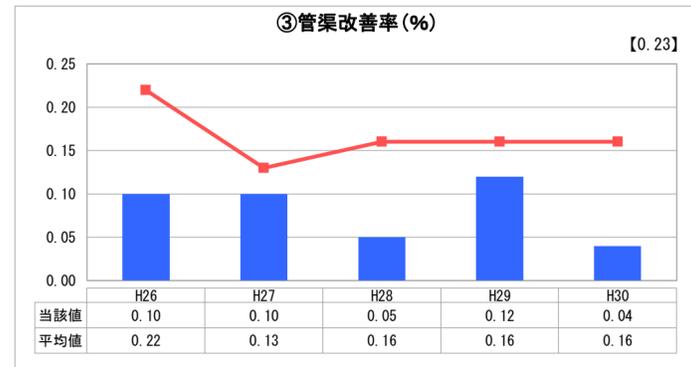
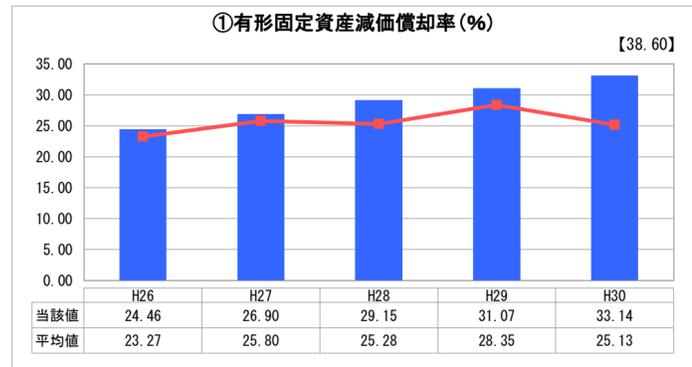
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
485,189	99.96	4,853.83
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
483,427	48.22	10,025.45

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

汚水処理原価を低く抑えつつ、経費回収率を高い状況に保てており、現状において使用料水準は適切であると言える。ただし、経常収支比率は100%を超え、累積欠損金も発生していないものの、流動比率が低く改善の必要がある。また、企業債残高対事業規模比率は平均的であるが、今後の使用料収入の減少も考えられることから、注意が必要である。

水洗化率は高く、適正に使用料収入を得られる環境にある。しかし、施設利用率においては、節水機器の普及や大規模事業場の撤退により、下水処理場への流入量も減少傾向にあり、処理能力に余裕がある状態である。現在、これまでの処理方式を高度処理へ変更しており、将来的には流入量に応じた処理能力を有した施設となる予定である。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超える管渠は、今後ますます増加傾向となる。これまでは厳しい財政状況の中、適正な維持管理により施設の延命化を図ってきた。しかし、今後は一時期に整備を行った管渠が法定耐用年数を超える時期を迎えることから、耐震化も含め平準化した更新計画と財源確保が課題となる。

全体総括

普及率はほぼ100%となったが、今後も雨水対策、老朽化対策、高度処理と多くの事業を進める必要がある。経営状況については、短期間に整備事業を進めた影響で大きな負担となっていた企業債償還がピークを過ぎ、今後は流動比率が改善されることが見込まれる。また、法定耐用年数を超える管渠は今後ますます増加傾向となり、令和20年頃にピークを迎える予定である。現在早期に整備を行った地区からストックマネジメント計画に基づく点検・調査を進めており、今後必要となる改築については、限られた事業費の中で、可能な限り平準化を行いながら、計画的に対応していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。